

山城

随想やましろ

診察室で「どんな下くなり方が良いか」という話題になることがあります。私はその方向へ話を持っていく場合もありますが、成り行きでそうなることがあります。そのような時、何人かの方が「ころりと逝きたい」と言われる。詳しく聞いてみると、多くの場合「苦みずくに」子供たちの世話にならずに」ということのようにです。

ところが、皆さんはこれが意外と大変なのを存じありません。いわゆる突然死はすぐには病死



門阪 庄三

ながら、警察の方への対応を迫られることになり。それに葬式や財産整理などの処理に大変な労力が必要です。そしてもっと重要なことは時間の経過のなかで家族に悲嘆や喪失感が襲ってくる

誰かの世話になることを考える

ことです。「幸せだったよ。ありがと」「私がいなくなってもしつかり生きるんだよ」「言葉が残されなかった無言の旅路は家族にはとても辛いものです。

さてその突然死ですが、その数は全死亡数の1割もないと言われています。つまり、ほとんどの方が病院・施設や自宅で一定程度の期間、病床で過ごした上で亡くなります。つまり、私たちのほとんどは人生の最期の時には誰かの「世話」になると言えます。私たちの多くはころりと逝きません。

そこで私から提案があります。そのことを前提



金・プラチナ
高価買取!
京阪くずは駅前
(有)橋本質店
072(6)51234

に、元気な今のうちに「苦みずくに」とはどういうことか、「苦しみに」逝くにはどうすれば良いかを考えておくのはどうでしょう。そして、もう一つ、「世話になる」として、食べることで助けてもらうのか、排泄のことで面倒をかけるのか、そして、「誰の世話になる」のかを家族の方と話しておくのはどうでしょう。それぞれ人の想いは違いますが結論を出すのは難しいかもしれませんが、家族がどんな気持ちでいるのかを話し合う機会を作ってください。

い。

ク) (かどさか内科クリニック)

